

すばる

白岡市立南中学校
校長室通信
平成27年4月23日

No.8

すばる とれど

『あいさつ』

いつも ありがとう

南中の生徒はよくあいさつをする方なのだろうか。そうではないのだろうか。

自分の学生時代には、高校時代に先輩から有無を言わせずたたき込まれたが、あいさつの効用についての話は聞いた覚えがない。今では、小学校でも中学校でも、生活目標となり、指導の重点となり、その善し悪しが学校の評価の一つともなっている。南中の生徒は、自分から進んであいさつをする者が少ない方ではないかという印象だが、先生方はどう感じているのだろうか。もちろん、こちらからあいさつすればたいてい返ってくるが、これによいのかとも思う。

担任をしていた頃、あいさつについて次のように指導していた。

- ①朝、起きたら家族に「おはようございます」と言いなさい。
- ②登校して、教室に入るときには一段とはっきりと「オッハヨー」と言いなさい。
- ③どちらも、自分から先に言いなさい。

その理由として、

- ①中学生はいつまでも子ども気分ではいけない。
- ②大人になりたければ、言われてやるのではダメ。
- ③家族も学級も、雰囲気をつくってもらうのではなく、自分がつくること。

そして、あいさつについて、少々オーバーだが、次のように話した。



みんなは、「言わなくてもいいや」という心の中に虫がわく年頃だ。そういう虫に自分の心を食われている人は、言わなくても損はしないし、何も変化がないと思っているかもしれない。例えば、先生に会っても、目をそらして、気づかないふりでそっと過ごしていれば大丈夫などと思っているかも。でも、本当に何も起こっていないだろうか。その場その場でやらなければという気持ちをごまかして過ごしているうちに、言い訳が先に来る考え方になっていく。そうやって、心のどこかをモヤモヤさせながら、その気持ちを積み重ねてしまう人と、その反対にあいさつすべきだと思ったら、言い訳を先に考えるより、きちんとする人では、もうすでに違ってきている。人はそういう経験を積み重ねて、その人自身をつくっていくものだからだ。結局、あなたはどんな人になりたいのか。あいさつをするかどうかは、そういうことにつながる。あいさつくらい、と思っている人は、あいさつさえできない人になっていく。



そして最後に、あなたにこのクラスの明るい雰囲気をつくる人になってもらいたい、家庭を明るくする人になってほしい、部活を活発で良い感じにしたい、と結んでいた。

先生方には、それぞれの話し方があるだろう。静かにあいさつの効用を説くのもいいだ

ろうし、熱く経験を語るのもいいだろう。先生のやり方でぜひ指導していただきたいと思う。全部の先生が何らかの指導をしたとき、子どもたちにより変化が生まれるはずだと思っている。

